

乙 第 号

吉澤 弘行 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	谷口 繁樹
論文審査担当者	委員	教授	西尾 健治
	委員(指導教員)	教授	嶋 緑倫

主論文

Dynamic evaluation of hemostasis in the acute phase of Kawasaki disease
using comprehensive coagulation functional assays

包括的凝固機能検査による急性期川崎病における止血動態の評価

Hiroyuki Yoshizawa, Keiji Nogami, Tomoko Matsumoto, Nobuyuki Tsujii,

Toshiyuki Sakai, Toshio Takase, Ichiro Tanaka, Midori Shima

Thrombosis Research 2019 Feb;174:76-83

論文審査の要旨

川崎病は原因不明の全身性血管炎であり、特に冠動脈の炎症が冠動脈瘤の形成から心筋梗塞を引き起こすことがある临床上重要な疾患である。本研究は、川崎病患児 42 名を対象とし急性期の凝固線溶動態を、凝固波形解析及びトロンビン-プラスミン生成試験を用いて包括的に評価した。その結果川崎病急性期では凝固亢進を示すものの、線溶も亢進しており血栓症のリスクを軽減していることが示唆された。また炎症急性期にフィブリノゲンが高値を示し、最大凝固速度や加速度が増加する一方で凝固時間は逆に延長することが判明した。さらに免疫グロブリン療法に対する反応不良例では凝固亢進状態が遷延することが示され、本研究で用いられた包括的凝固機能評価は川崎病の凝固動態の有用なモニタリングとなりうる可能性が示された。

これまで川崎病急性期の凝固動態に関する知見は極めて乏しく、本研究は川崎病の凝固線溶動態を初めて明らかにした点、さらにその凝固線溶動態が今後の治療介入におけるモニタリングとしての応用が期待される点から極めて有意義な研究と判断する。公聴会での質疑応答も的確であり、博士（医学）の学位に相当する研究であると評価する。

参 考 論 文

1. Pulmonary hypertension with diffuse lung lesions in cobalamin C defect
Yoshizawa H, Nogami K, Yaoi H, Shima M
Pediatr Int. 2019 Oct;61(10):1062-1063
2. Involvement of the ADAMTS13-VWF axis in acute Kawasaki disease and effects of intravenous immunoglobulin
Tujii N, Nogami K, Matsumoto M, Yoshizawa H, Takase T, Tanaka I, Sakai T, Fukuda K, Hayakawa M, Sakai K, Isonishi A, Matsuura K, Fujimura Y, Shima M
Thromb Res. 2019 Jul;179:1-10
3. 感染性胃腸炎から横紋筋融解症・急性腎不全を合併した房室中隔欠損の乳児例
西本 瑛里, 吉澤 弘行, 野上 恵嗣, 嶋 緑倫
日本小児救急医学会雑誌 15 卷 3 号 Page415-418(2016.10)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに発達・成育医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和元年11月12日

学位審査委員長

循環・呼吸機能制御医学

教授 谷口 繁樹

学位審査委員

総合臨床病態学

教授 西尾 健治

学位審査委員(指導教員)

発達・成育医学

教授 嶋 緑倫